

よこはまユースレター

発行/公益財団法人よこはまユース
tel.045-662-3716 fax.045-662-7645
URL <https://yokohama-youth.jp/>
Eメール/ soumu@yokohama-youth.jp

子ども・若者エンパワメントセミナー2021 報告

3.11 を振り返って ～あの日の話、明日の話～

2021年度のエンパワメントセミナーは、2011年3月の東日本大震災を、若者の視点から、若者とともに振り返りました。第一部は震災に関する著書のある作家の石井光太氏にご講演いただき、第二部では横浜と釜石の学生たちが意見を交わしました。(2021.12.11 於 関内ホール)



岩手県釜石市と映像をつなぎ、若者たちが「あの日」と「明日」を語り合いました。

【第一部】講演 (要旨)

震災直後、釜石の遺体安置所では過酷な状況の中、ごく普通の市民たちが自分の役割に必死に向き合っていました。家や家族を失った人は周囲の助けで何とか心を支えていましたが、現実を受けとめられない人も少なくありませんでした。

町の復興が進んでも、被災者の心の傷は決して癒えることはありません。このイベントの実行委員の学生が被災者を取材した時、お前たちは何をしに来たんだと怒られたそうです。彼らは被災者に対する想像力やアプローチが足りていなかったことに気付けた、とても貴重な経験をしました。では私たちに何ができるのか。瓦礫の片付けや物資を送るのもいいですが、自分がしたいことや得意なことをすればいいと思います。その思いはきっと被災者の心に届くでしょう。

もし、あの時何もできなかったと思うのなら、そのモヤモヤした思いはいつか同じような場面に出会った時に取り返せばよいのです。人生はその繰り返しではないでしょうか。



司会進行は実行委員の大学生が務めました。当日は、若者たちが作成した映像を鑑賞したほか、釜石の高校生と、青森、福島出身の学生たちが「あの日」を語る場面もありました。

【第2部】ディスカッション (発言抜粋)

- ・被災地に行って初めて知ることがたくさんありました。横浜のような都市部でも地域の繋がりを作っておくことが大切だと思います。(横浜の学生)
- ・津波で流される町を泣きながら見ました。震災の記憶を伝えていくことが私たち世代の役目だと思います。(釜石の高校生)
- ・例え津波で流された町でも、戻れてうらやましいと思ってしまいました。(浪江町出身の学生)
- ・復興への思いや心の傷は人によって違います。そこに想像力を働かせ、考え続けてほしい。その思いが未来を作るのだと思います。(石井光太氏)

参加者からは「若い人がこのようなセミナーを作り上げたことに敬意を表します」「被災者が今も抱えている痛みを感じながら交流し、考えを深め、伝え続けていくことの大切さを感じました」などという感想が寄せられました。『YOKOHAMA EYE'S 2021』にも詳細を掲載します。

本事業についての問合せ

■事業企画課 TEL045-662-4170